

月刊フットマーク

号外

第17回アジア競技大会(韓国)

発行:フットマーク広報室
東京都墨田区緑2-7-12

- ◆2014年9月19日(金)~10月4日(土)
- ◆文鶴(ナムク)バク・テファン水泳センター
- ◆第17回アジア競技大会(韓国)



涙こらえ、笑顔

わすか
10センチ届かず
金藤 銀

平泳ぎ200m



女子200m平泳ぎ決勝
1位 渡部香生子 (JPN) 2:21.82
2位 金藤 理絵 (JPN) 2:21.92
3位 シ・ジンリン (CHN) 2:23.25



ラスト50m。最後の最後まで懸命に追いかけた金メダルの夢。だが先を行く渡部香生子選手にわずかに及ばず、その差0秒10。金藤理絵の国際大会2大会連続の銀メダルが確定した。

タッチの瞬間、会場全体の視線が電光掲示板へ向けられる。金藤か、渡部か。目視でもわずかの10センチほどの差に命運が分かれた。歓喜と興奮が入り混じる中、彼女は表情を変えることはなかった。一瞬、勝ったかと思えた。まるで自分も泳いでいたかのような気持ちの糸が切れた。だが興奮はしばらく収まらなかった。

本来はこの場にはいないはずだった。昨秋の引退宣言を撤回して再び世界の舞台に挑んでいた。「自分のためではなく、応援してくれている誰かのために泳ぐ」。水泳を

続ける動機に生まれた変化。半ば期限付きの続行ではあったが、気持ちとは裏腹に好タイムが生まれていた。世界大会、二度目の銀メダル。八月のパンパシフィック選手権に続き、2分21秒台の好タイムを残す。

長年、金藤を指導する加藤健志コーチは「泳ぐ目的が変わった。もう昔とは全く違う次元で泳いでいる。それが今の強さ」と成長ぶりを語る。ラスト50mを追い上げる姿は、力強く、無心、貫禄さえあった。持味の後半の泳ぎが、いつもに増して大きく見えた。

『最後まで勝てなかった。涙をこらえ、勝つことへのこだわり。が見えた心の内。』

今後の去就が注目されるが、まだやり残したことがある。このままでは終われない。いや、終わるはずがない。